

平成 28 年度

主要農作物奨励品種特性表

目 次

○ 奨励品種一覧	1
○ 主要農作物奨励品種特性表の作成基準	2
1 水稻の部	3
2 麦の部	
(1) 大 麦	10
(2) 小 麦	11
3 大豆の部	13
4 小豆の部	15
5 あわの部	15
6 きびの部	16
7 そばの部	17
○ 奨励品種の変遷	18

長 野 県

○奨励品種一覧

種類	品種名	区分		種類	品種名	区分		種類	品種名	区分							
		奨励	認定			奨励	認定			奨励	認定						
水	うるち米 主食用米	きらりん	○		大 麦	ファイバースノウ	○		小 豆	中納言	○						
		ゆめしなの	○			東山皮糯 109号 ^(注2)	○				合計	1 品種	1 品種				
		あきたこまち	○		小 麦	ハナマンテン	○	○	あ わ	しなのつぶ姫	○						
		ひとめぼれ	○										シラネコムギ			あわ信濃2号	○
		コシヒカリ	○										しゅんよう			合計	2 品種
		風さやか	○		ユメセイキ			き び	黍信濃1号	○							
		キヌヒカリ	○		フウセツ							きび信濃2号	○				
	天竜乙女		○	ゆめかおり			合計	2 品種	2 品種								
				ゆめきらり			そ ば	しなの夏そば	○	○							
	新需 ^(注1)	ふくおこし		○								蕎麦信濃1号	○				
稲	酒 米	しらかば錦		○	小 計	7 品種	1 品種	6 品種	合計	2 品種	2 品種						
		美山錦	○			10 品種	3 品種	7 品種		しなの夏そば	○						
	ひとつこち	○		大 豆	あやこがね	○	○	信州大そば	○								
	金紋錦		○								すずろまん			開田早生	○		
小計	13 品種	8 品種	5 品種		ギンレイ	○	○	タチアカネ	○								
もち 米	カグヤモチ	○			ナカセンナリ		○	長野S8号	○								
	オラガモチ	○		合計	6 品種	2 品種	4 品種	合計	6 品種	2 品種	4 品種						
小計	4 品種	4 品種			つぶほまれ		○	総計	44 品種	24 品種	20 品種						
小計	4 品種	4 品種			すずほまれ		○										
合計	17 品種	12 品種	5 品種	合計	6 品種	2 品種	4 品種	総計	44 品種	24 品種	20 品種						

注1：新規需要米等

注2：農林水産省への品種登録を出願中であり、品種名は確定していない。

【奨励品種の定義】

区分	定義
奨励品種	収量性、病害虫抵抗性、品質、食味、その他栽培上の重要な特性及び生産物の利用上の重要な特性が優秀であり、普及上特に支障となる欠点のないもの。
認定品種	(1) 収量性、病害虫抵抗性、品質、食味、その他の栽培上の重要な特性、又は生産物の利用上の重要な特性のいずれかに優れているもの。 (2) 奨励品種と同等に優秀であると認められた品種でも、農業者の経営内容及び技術水準、主要農作物の需要動向等からみて普及性が明確でないもの。

○主要農作物奨励品種特性表の作成基準

この特性表は本県試験場における奨励品種決定調査結果に基づき作成したものである。

項目 \ 作物	水 稻	麦 類	大豆・小豆	あわ・きび	そ ば
出 穂 期	全莖数の 40～50%が出穂した日	同 左	—	全穂の 40～50%が出穂した日	—
稈 長	最長稈の地際から穂首までの長さ	1 株又は、一定か所の最長稈の穂首までの長さ	—	地際から穂首節までの長さ	—
草 丈	—	—	—	—	地際から最頂端までの長さ
主 茎 長	—	—	子葉節又は地際から茎の成長点までの長さ	—	—
開 花 期	—	—	全株数の 40～50%が開花始めに達した日	—	—
成 熟 期	帯緑色籾歩合が 5%となった時期	小麦...穂首が黄変し 1 穂の粒が 90%以上褐変した日 大麦...ほとんどの穂及び穂首が黄変した日	全株数の内、80～90%で莢の大部分が変色し、かつ粒の大部分が品種固有の色を現わし、莢を振って音のする日	大部分の穂の下位部粒が臘の硬さに達した日	果実の約 80%が成熟に達した日(成熟とは果皮が黒褐色に変わり、内容がやや粉状となったとき)
穂 長	最長稈の穂首から穂先(芒を含まない)までの長さ	同 左	—	穂首節より穂の先端までの長さ(芒を含まない)	—
品 質	粒揃、粒色、光沢、心白、腹白、胴割等の総合判定	粒張り、粒揃、粒大、粒溝、粒色、光沢、障害粒程度等の総合判定	—	粒の充実度、色沢、粒揃い等の総合判定	—
食 味	食味の官能試験の結果	—	—	—	—

1 水稻の部

(1) 農業試験場原村試験地における成績

品 種 名 (両親名)	奨励及び 認定品種 編入年次 育成地	出 穂 期 (月日)	成 熟 期 (月日)	稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	穂 数 (本/㎡)	玄米収量 (kg/10a)	容積重 (g/トリス)	玄米千粒重 (g)	外 観 品 質	食 味	倒 伏 耐 性	稈 の 細 太	葉 色	芒 の		稈 先 色	稈 色	粒 着 疎 密	耐 冷 性	いもち病 抵抗性		いもち病 抵抗性 病性型	推定 遺伝子 型	特性並びに栽培上の注意	適応地帯 ()内は、東信の霧下、 中信北部、北信
															多 少	長 短					葉	穂				
き ら り ん 〔コシヒカリ ／ 空育143号〕	奨励 平11 長野農事試	7.29	9.11	74	18.9	569	628	840	21.5	上下	上下	中	やや細	やや淡	稀	短	黄白	黄白	中	強 やや強	強	強	Pik	極早生の穂数型。食味はコシヒカリに近い。耐冷性は強～やや強であるが、冷温時には深水管理等の冷害対策を実施する。いもち病には強い方であるが適正防除に努め、多肥栽培は避ける。玄米は小粒で粒揃い良く、1.7mm篩で良質な精玄米が得られる。低暖地の早期収穫栽培にも利用でき、5月上中旬植えて8月中旬の収穫が可能である。	標高1,000m(800m) 以下の地帯	
ゆめしなの 〔コシヒカリ ／ 空育143号〕	奨励 平9 長野農事試	8.5	9.17	81	17.3	445	606	833	21.9	上中	上中	やや弱	やや細	中	無	—	黄白	黄白	やや密	強	中	中	Pia Pik	早生、やや長稈、中間型。稈やや細く耐倒伏性はやや弱。玄米品質はしなののがね並に良く、食味はコシヒカリ並の極良。収量はきらりんよりやや劣る。耐冷性は強いが、冷温時には深水管理等の冷害対策を実施する。いもち病には強くないので適正防除に努める。玄米は小粒で粒揃い良く、1.7mm篩で良質な精玄米が得られる。	標高800～1,050m(700 ～1,000m)の高冷地	
(糯 米) カ グ ヤ モ チ 〔中母37 ／ コチミノリ〕	奨励 平3 青森農試 藤坂支場	8.4	9.14	68	17.6	477	622	817	20.9	中上	上	強	やや太	やや濃	無	—	褐	黄白	やや密	やや強	やや強	やや強	Pia	早生、短稈、偏徳重型。稈太く強稈で倒伏に強い。耐冷性はやや強であるが、冷温時には深水等の冷害対策を実施する。いもち病には強い方であるが適正防除に努める。穂数確保のため初期生育の促進をはかる。糯の中ではやや大粒で良質、多収。刈遅れによる品質低下に注意する。	標高900m(700m) 以下の高冷地	

※耕種方法：4月20日播種、ビニール折衷、中苗 5月25日30×15cm3本植、手植。

※データは、平成21年～平成26年の平均値(但し平成22年は雀害発生によりデータ除外)。但しカグヤモチは14年～20年。

(2) 農業試験場における成績

品 種 名 (両親名)	奨励及び 認定品種 編入年次 育成地	出 穂 期 (月日)	成 熟 期 (月日)	稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	穂 数 (本/㎡)	玄米収量 (kg/10a)	容積重 (g/ℓ)	玄米千粒重 (g)	外 観 品 質	食 味	倒 伏 耐 性	稈 の 細 太	葉 色	芒 の		稈 先 色	稈 色	粒 着 疎 密	耐 冷 性	いもち病 抵抗性	いもち病 抵抗性	いもち病 抵抗性	推定 遺伝 子 病 性 型	特性並びに栽培上の注意	適応地帯 ()内は、東信の霧下、 中信北部、北信
															多 少	長 短										
あきたこまち 〔コシヒカリ ／ 奥羽292号〕	奨励 平14 (認定 平8) 秋田農試	7.29	9.7	91	17.9	477	624	835	21.8	上下	上下	中	中	中	少	短	黄白	黄白	中	中	やや弱	やや弱	Pii Pii	早生、中稈、中間型。やや多収、良質で、コシヒカリに準じる良食味。耐冷性やや弱で早生品種としては劣るので、適地を越えた高標高では栽培しない。耐冷性が弱いので低温時には深水管理等の冷害対策を必ず実施する。いもち病に弱いので、発生に注意し適期防除に努める。多肥は品質・食味を低下させるので施肥基準を守る。	標高 700～850m(500～700m) の地帯	
ひとめぼれ 〔コシヒカリ ／ 初星〕	奨励 平14 (認定 平9) 古川農試	8.4	9.11	90	19.3	533	602	840	22.7	上下	上下	やや弱	中	中	少	短	黄白	黄白	中	強	やや弱	やや弱	Pii	中生の早、中稈、偏穂数型。外観品質は良く、コシヒカリに準ずる良食味である。耐倒伏性が劣ること、及び良質・良食味の特性を生かすため多肥栽培は避ける。いもち病には弱いので、適正防除に努める。	標高700m(500m)以下の地帯	
コシヒカリ 〔農林22号 ／ 農林1号〕	奨励 昭53 福井農試	8.7	9.18	100	18.4	476	634	836	22.4	上下	上中	極弱	中	やや濃	稀	短	黄白	黄白	中	—	弱	弱	+	中生、長稈、中間型。長稈で倒伏しやすい。外観品質は良く、極良食味。倒伏防止による良質米生産のため、基肥を減量し追肥は幼穂長 10mm期 (出穂前 18日頃) に行う。いもち病に弱いので、防除の徹底を図る。	標高 700m(500m) 北信地域は 400m) 以下の地帯	

※耕種方法：4月20日播種、中苗 5月20日 30×15cm3本植、手植。

※データは、平成21年～平成27年のうち、収量最高、最低年を除く5ヶ年の平均値。

品 種 名 (両親名)	奨励及び 認定品種 編入年次 育成地	出 穂 期 (月日)	成 熟 期 (月日)	稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	穂 数 (本/㎡)	玄米収量 (kg/10a)	容積重 (g/㍉)	玄米千粒重 (g)	外 観 品 質	食 味	倒 伏 耐 性	稈 の 細 太	葉 色	芒 の		稈 先 色	稈 色	粒 着 疎 密	耐 冷 性	いもち病 抵抗性		いもち病 抵抗性 遺伝子 病性型	推定遺伝子 型	特性並びに栽培上の注意	適応地帯 ()内は、東信の霧下、 中信北部、北信
															多 少	長 短					葉	穂				
風 さ や か 〔北陸178号 信交485号 (ゆめしなの)〕	奨励平28 (認定平24) 長野農事試	8.10	9.21	83	17.6	455	683	832	22.7	上下	上中	強	やや太	やや淡	無	—	黄白	黄白	密	—	やや強	強	Pii	中生の晩、短稈、中穂の中間型。高温登熟による障害粒発生を回避でき、耐倒伏性が高い。いもち病にも強い。また収量性も高く、食味も優れる品種である。	標高600m以下(北信は400m)	
キヌヒカリ 〔収2800 北陸100号 ナゴユタカ〕	認定平28 (奨励平3) 北陸農試	8.9	9.18	85	17.6	460	627	836	22.7	上下	上下	強	中	やや濃	無	—	黄白	黄白	やや密	—	中	やや弱	Pii	中生の晩、短強稈、中間型。外観品質、食味ともコシヒカリ並。いもち病抵抗性はやや弱なので適期防除に努める。白葉枯病にやや弱く、穂発芽性やや易。穂数が少ないと減収する場合があるので、穂数確保に努める。良質米生産のため、多肥栽培を避ける。直播栽培に適する。	標高600m(東信の霧下は500m、北信は400m、中信北部は除く)以下の地帯	
天 竜 乙 女 〔いなひかり 愛知92号 (祭り晴)〕	認定平21 長野農試	8.18	9.30	80	19.9	417	631	826	21.2	中上	上下	強	やや太	中	少	短	黄白	黄白	中	—	強	強	Pia Pii	晩生、中稈、中穂の中間型。稈はやや太く耐倒伏性が強い。玄米はやや小粒であるが、外観品質は良好である。いもち病には強いが、白葉枯病にはやや弱い。良食味米生産のために多肥栽培は避ける。	南信地方の標高600m(北信は400m)以下の地帯。	
(新規需要米等) ふくおこし 〔ほそおもて ふくひびき〕	認定平23 長野農事試	8.4	9.11	93	20.7	486	898	827	23.4	—	—	強	中	中	稀	短	黄白	黄白	やや密	やや弱	極強	強	Pia Pii Pik	中生の早の熟期で耐倒伏が強く、いもち病に強い。耐倒伏性が強いので、直播栽培が可能。米粉・醸造用(掛け米)としての利用が可能。炊飯の食味は「並」で食用に供することができる。玄米品質はやや大粒のほか被害粒はなく一般主食用うるちとの識別性はない。	標高700m以下の地帯	

※耕種方法：4月20日播種、中苗 5月20日 30x15cm3本植、手植。

※データは、風さやか、天竜乙女は平成21年～平成27年のうち収量最高、最低年を除く5ヶ年の平均値。ふくおこしの出穂期～玄米収量は平成20年～平成23年の平均値。

品 種 名 (両親名)	奨励及び 認定品種 編入年次 育成地	出 穂 期 (月日)	成 熟 期 (月日)	稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	穂 数 (本/㎡)	玄米収量 (kg/10a)	容積重 (g/ℓ)	玄米千粒重 (g)	外 観 品 質	食 味	倒 伏 耐 性	稈 の 細 太	葉 色	芒 の		稈 先 色	稈 色	粒 着 疎 密	耐 冷 性	いもち病 抵抗性		いもち病 抵抗性 遺伝子 病性型	推定遺 伝子 型	特性並びに栽培上の注意	適応地帯 ()内は、東信の霧下、 中信北部、北信
															多 少	長 短					葉	穂				
(酒米) しらかば錦 〔レイメイの γ線突然変異〕	認定昭58 長野農事試	7.27	9.3	81	20.6	404	586	817	24.7	中上	—	中	やや太	やや濃	稀	短	黄白	黄白	疎	中	(弱)	(弱)	Pia Pita ²	早生、中稈、長穂の穂重型。葉幅はやや広く、垂れ気味となる。稈はやや太く剛いが、耐倒伏性は中程度である。粒着は疎である。玄米はやや長い大粒で、心白発現率が高く、酒造用に好適。耐冷性は中。穂数を早期に確保し、適期刈取に留意する。米選機は2.0mmを使用する。	標高700~850m(700m以下)の地帯	
(酒米) 美山錦 〔たかの錦の γ線突然変異〕	奨励昭53 長野農事試	7.29	9.5	103	20.9	406	574	823	22.7	中上	—	やや弱	やや太	やや濃	無	—	黄白	黄白	やや密	やや強	やや弱	やや弱	Pia Pii	中生の早、長稈、穂重型。稈は太いが長稈のため倒伏しやすい。いもち病抵抗性はやや弱い。出穂前後の曇天、低温、強風などで褐変粒が出やすい。米選機は2.0mmを使用する。大粒で心白の発現率が高く、酒造好適米として適する。穂肥は出穂前20日(幼穂長5~10mm期)を目標に1回施用とする。	標高700m(600m)以下の地帯	
(酒米) ひとごち 〔白妙錦 / 信交444号〕	奨励平10 長野農事試	8.3	9.9	89	20.2	426	675	819	27.0	上下	—	中	中	中	微	短	黄白	黄白	中	強 やや強	中	中	Pia Pii	中生の早、中稈、偏穂重型。大粒で心白発現率が高く、極良質の酒造好適米。美山錦より倒伏に強いが、多肥栽培を避ける。高品質米生産のため、追肥は出穂前20~15日の1回とする。適期収穫を行い2.0mmの米選機で調製し、特上・特級規格米とする。耐冷性は美山錦よりやや強いが、低温時には深水管理等の冷害対策を実施する。	標高700m以下(600m)の地帯	
(酒米) 金紋錦 〔たかの錦 / 山田錦〕	認定昭39 長野農試	8.1	9.9	88	21.4	487	595	815	25.1	上下	—	弱	中	中	稀	短	黄白	黄白	疎	—	弱	やや弱	Pia	中生、中稈、中間型。稈は柔らかく、倒伏しやすい。いもち病・白葉枯病に弱い。粒着は疎で、やや脱粒性がある。大粒で心白発現率が高く、酒造好適米として好適。米選機は2.0mmを使用する。	標高500m以下の地帯	

※耕種方法：4月20日播種、中苗 5月20日 30x15cm3本植、手植。

※データは、しらかば錦は平成11年~平成17年の平均値、美山錦、ひとごちは平成21年~平成27年、金紋錦は平成13年~17年のうち収量最高、最低年を除く5ヶ年の平均値。

※いもち病抵抗性欄()はいもち病菌系の変化により抵抗性が大きく変化することを示す。

品 種 名 (両親名)	奨励及び 認定品種 編入年次 育成地	出 穂 期 (月日)	成 熟 期 (月日)	稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	穂 数 (本/㎡)	玄米収量 (kg/10a)	容積重 (g/ℓ)	玄米千粒重 (g)	外 観 品 質	食 味	倒 伏 耐 性	稈 の 細 太	葉 色	芒 の		稈 先 色	稈 色	粒 着 疎 密	耐 冷 性	いもち病 抵抗性		いもち病 抵抗性 遺伝子 型	推 定 遺 伝 子 型	特性並びに栽培上の注意	適応地帯 ()内は、東信の霧下、 中信北部、北信
															多 少	長 短					葉	穂				
(糯米) オラガモチ 〔ヒデコモチ ／ アネコモチ〕	奨励 平13 古川農試	7.26	9. 2	86	20.2	352	530	814	21.6	中上	上	やや強	やや太	やや濃	無	—	赤褐	黄白	やや密	強 やや強	やや強	強	P i a P i i P i k	早生、やや長稈、やや長穂の穂重型。 耐倒伏性はやや強。いもち病に強く、耐 冷性に優れる。糯品種の中では穂発芽耐 性がある。餅質はもちひかり並で良い。 餅の硬化性は、もちひかりより遅く、柔 らかさを維持するタイプである。	標高700～900m (600 ～800m) の地帯	
(糯米) もちひかり 〔みずずもち ／ トロキワセ〕	奨励 昭60 長野農事試	7.30	9. 3	82	18.1	508	591	822	19.6	上下	上	やや強	中	中	無	—	赤	黄白	中	強	中	やや弱	P i i	中生の早、中稈、中穂の偏穂数型。い もち病はやや弱である。耐冷性は強い。 登熟が良好で品質は良い。餅の硬化性は 早い。強稈・多収だが、基肥が不足する と穂数減により、収量が低下するので注 意する。	標高800m(700m) 以下の地帯	

※耕種方法：4月20日播種、中苗 5月20日 30×15 cm 3本植、手植。

※データは、オラガモチは平成11年～17年のうち収量最高、最低年を除く5ヶ年の平均値、もちひかりは平成16年～平成24年のうち平成20,21年を除く6ヶ年の平均値。

(3) 南信農業試験場における成績

品 種 名 (両親名)	奨励及び 認定品種 編入年次 育成地	出 穂 期 (月日)	成 熟 期 (月日)	稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	穂 数 (本/㎡)	玄米収量 (kg/10a)	容積重 (g/粒)	玄米千粒重 (g)	外 観 品 質	食 味	倒 伏 耐 性	稈 の 細 太	葉 色	芒 の		稈 先 色	稈 色	粒 着 疎 密	耐 冷 性	いもち病 抵抗性		いもち病 抵抗性 病性型	推定遺伝子型	特性並びに栽培上の注意	適応地帯 ()内は、東信の霧下、 中信北部、北信
															多 少	長 短					葉	穂				
(糯米) モリモリモチ 〔モチミノリ ／ もちひかり〕	奨励平12 長野農試	8.10	9.28	80	21.7	367	717	815	22.1	上下	上下	強	やや太	中	無	—	赤	黄白	中	—	やや弱	やや弱	+	晩生の早の糯、中稈、中間型。葉はやや立ち草型良い。稈はやや太く、倒伏に強い。穂長長く、粒着密度は中。いもち病抵抗性はやや弱いので適期防除に努める。白葉枯病には中～やや弱である。玄米はモチミノリより白く外観品質は良い。餅質は良く、大福・おこわ等に適する。良質米生産のため多肥栽培は避ける。	木曾郡を含む南信地方の標高 600m(北信は400m)以下の地帯	

※耕種方法：4月19日播種 中苗 5月20日 30x15cm 3本植 手植。

※データは、平成11年～平成17年のうち収量最高、最低年を除く5ケ年の平均値。

<参考>

農業試験場における成績

品 種 名 (両親名)	普及に 移した 年次 育成地	出 穂 期 (月日)	成 熟 期 (月日)	稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	穂 数 (本/㎡)	玄米 収量 (kg/10a)	容 積 重 (g/粒)	玄米 千粒重 (g)	外 観 品 質	食 味	倒 伏 耐 性	稈 の 細 太	葉 色	芒 の		稈 先 色	稈 色	粒 着 疎 密	耐 冷 性	いもち病 抵抗性		いもち病 抵抗性 遺伝子 型	推定 遺伝 子 病性型	特性並びに栽培上の注意	適応地帯 ()内は、東信の霧下、 中信北部、北信
															多 少	長 短					葉	穂				
(低アミロース米) ねばりごし 〔21-36〕 ドシカのッ線突然 変異の遺伝子深納 ／ キヌヒカリ	平10 長野農事試	8.10	9.20	82	16.6	508	605	825	18.7	中上	—	やや強	中	中	無	—	黄白	黄白	やや密	—	やや弱	やや強	Pii	中生の晩、アミロース含量が5~6%と低く、炊飯米は粘りが強い。同一ほ場で栽培し、混種を防止する。いもち病には強くないので、適期防除に努める。粘りの弱い粳米や古米と混合することにより、食味の向上が図られる。	標高600m(、東信の霧下は500m、中信北部は除く、北信は400m)以下の地帯	
(紫黒糯) しなの深紅 〔カグヤモチ〕 ／ 東北糯149号	平10 長野農事試	8.7	9.18	89	20.5	374	459	808	22.1	—	—	中	やや太	緑紫	少	短	紫	淡紫	やや疎	やや強	やや弱	やや強	Pia	中生、脱粒性難の紫黒糯。葉緑部・葉鞘等が紫色を呈する。耐倒伏性は中。一般米に混米すると規格外となるので、同一ほ場で栽培し、混種を防止する。多肥栽培を避け、いもち病の適期防除に努める。果皮部の赤紫色素を利用して、赤飯、餅などの材料に用いる。	標高700m(600m)以下の地帯	
(飼料イネ) 信交507号 〔ほそおもて〕 ／ ふくひびき	平17 長野農事試	8.4	9.11	93	20.7	486	898	827	23.4	—	—	強	中	中	稀	短	黄白	黄白	やや密	やや弱	極強	強	Pia Pii Pik	中生の早の飼料イネ品種。いもち病の発生はみられないが、菌系の変動に注意する。収穫は出穂30日前後の黄熟期に行い、ホールクローブサイレージとして利用する。耐倒伏性に優れるが、極端な多肥栽培を避ける。	標高1000m(800m)以下の地帯	
(紫黒糯) たかね紫 〔カグヤモチ〕 ／ 東北糯149号	平19 長野農事試	7.26 8.4	9.1 9.21	79 75	20.1 19.0	434 384	414 478	—	21.2 20.2	—	—	強	中	緑紫	無	—	紫	淡紫	中	強	強	強	Pia Pii	早生、脱粒性難の紫黒糯。葉緑部・葉鞘等が紫色を呈する。耐倒伏性は強。一般米に混米すると規格外となるので、同一ほ場で栽培し、混種を防止する。多肥栽培を避け、いもち病の適期防除に努める。果皮部の赤紫色素を利用して、赤飯、餅などの材料に用いる。	標高900m以下の地帯	

※普及に移した年次：普及に移す農業技術として採用された年次。

※耕種方法：4月20日播種、中苗 5月20日 30x15cm3本植、手植。

※データは、平成11年~平成17年のうち収量最高、最低年を除く5ヶ年の平均値。ただし出穂期~玄米収量は、信交507は号平成20年~平成23年、その他は平成14年~平成17年の平均値。たかね紫は平成12年及び17年の2ヶ年平均値で、下段は原村試験場における成績(平成12、13、17、18年の4ヶ年平均)。